

福井・石川広域共同プロジェクト*

The Co-Project of The Border Area in Fukui-Ishikawa Prefecture

脇 本 幹 雄**

By Mikio Wakimoto

木 村 一 嗣***

By Kazushi Kimura

ABSTRACT (要旨)

福井・石川広域共同プロジェクトは、県境を接した地域において、戦略的なプロジェクトを福井・石川両県および関係自治体が共同で実施することにより、広域的に魅力ある地域づくりを行うものである。このため、対象地域の社会経済状況等を分析し、地域の目指すべき振興策を立案するとともに、そのために必要な拠点形成および関連公共基盤整備についての基本計画および事業実施計画を作成した。この結果、固有の地域資源である「みず」と「いで湯」を活用し、単なる観光から脱皮し、来客者同士さらに住民との交流を深める「文化連邦」を形成することを主なコンセプトとした計画を立案した。

1 広域共同プロジェクトの制度概要

・広域共同プロジェクトは、複数の都道府県にまたがる地域を対象として、関係地方公共団体を事業主体として国庫補助事業及び単独事業により実施される事業群から構成されるプロジェクトである。

・都道府県の区域を越える広域的な地域づくりに資するものとして建設省及び自治省が共同して選定し支援するものである。

・本制度はモデル事業的な性格のものであり、平成3～4年度の2年間に限って行われた制度である。

・本制度の特徴は次のとおりである。

(1) 行政区域の違いにより、ちぐはぐになりがち

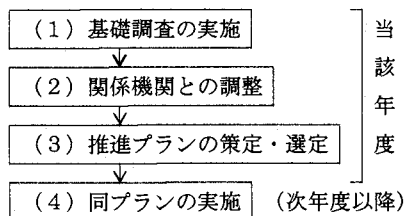
であった県境付近の交流・地域振興を一体的・計画的に推進する。

(2) 中長期的な地域振興の方向を踏まえつつ、短期間で一定の事業効果を得るため、概ね5か年間の事業実施計画(推進プラン)を策定する。

(3) 計画策定及び事業実施にあたり、国庫補助事業(建設省の支援)と地方単独事業(自治省の支援)を組合せ重点実施し、総合的な効果を上げる。

2 広域共同プロジェクトの選定手順

広域共同プロジェクトは、都道府県が計画策定の主体となり、以下の手順で行われる。



* キーワード: みず、いで湯、文化連邦

** 福井県土木部監理課企画係長

(〒910 福井県福井市大手3丁目17番1号)

*** 石川県土木部道路建設課企画調査係長

(〒920 石川県金沢市広坂2丁目1番1号)

(1) 基礎調査の実施

広域共同プロジェクトを実施しようとする都道府県は、国の承認を受け、学識経験者や関係機関から構成される調査委員会のもとに、推進プラン策定のための基礎調査を実施する。

(2) 関係機関との調整

関係市町村の地域振興の目標を踏まえ、計画主体の都道府県が広域的な観点から共同で企画・立案した原案を国・両県・市町村との間で調整を行う。

(3) 推進プランの策定・選定

前出の原案を推進プランとして策定し、国に提出し、選定を受ける。

(4) 同プランの実施

選定を受けた推進プランに基づき、同プランに位置付けられた事業を次年度から概ね5か年間で実施する。

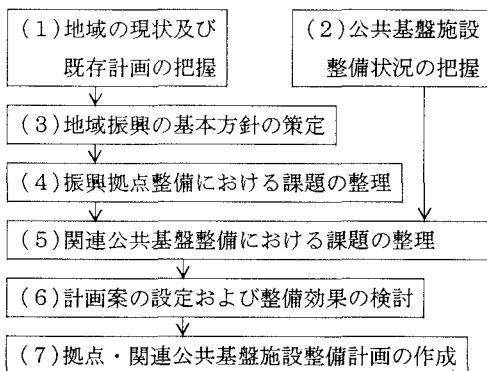
3 福井・石川広域共同プロジェクトの内容

・全国で、平成3年度に9か所の、平成4年度には7か所の広域共同プロジェクトの選定が行われた。

・福井・石川広域共同プロジェクトは、このうちの平成4年度選定分に含まれ、両県の県境付近において、前記の手続に従った計画策定が行われた。

・基礎調査は、対象地域の社会経済状況等を分析し、地域を目指すべき振興策を立案するとともに、そのために必要な拠点形成および関連公共基盤整備についての情報を整理し、事業実施のための推進プランを作成するものである。

・以下、次の手順で行った基礎調査で取りまとめた結果を報告したい。



(1) 地域の現状および既存計画の把握

自然・社会・経済状況及び既存の上位計画・総合計画・開発プロジェクト等のデータを収集整理した。

a) 計画対象地域の設定

・福井県嶺北北部地域の三国町・芦原町・金津町・丸岡町および石川県南加賀地域の加賀市・山中町は、北陸の温泉郷のうちでも、山代、片山津、山中、芦原温泉が集中立地する等、指折りの観光・保養基地である。両県でもトップクラスの観光入り込み数を誇っており、これらを有効に活かしながら、地域全体への波及効果を広めていくことが重要であると考えられる。

・本地域は、越前加賀海岸国定公園の指定を受け、磯・浜・潟による美しく変化に富みながらも利用しやすい優れた地域資源を有している。さらに、なだらかな地形を利用したゴルフ場や各種観光資源が多く、同じ加越山地に源を発する大聖寺川および竹田川の渓谷美は、共同して保全・活用する必要がある。

・このように地域資源・自然環境において、共通の特性を持つ本地域は、観光・レクリエーションを中心にプロジェクトを一体的かつ総合的に実施・支援すべき適地であると考えられる。(図1参照)

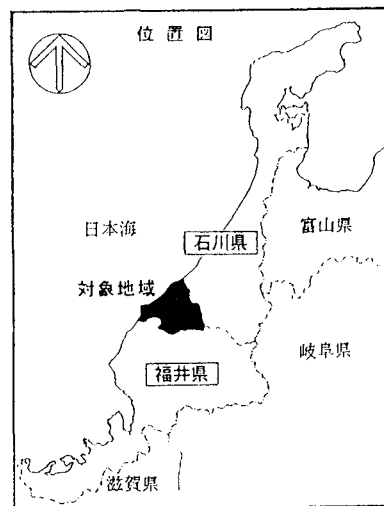


図1 (調査対象地域図)

b) 上位計画の位置付け

各種上位計画における対象地域の広域的な位置付けをまとめると、

- ・関東・関西・中京方面からの保養圏域にあたり、大都市圏との近接性を活用することが重要である。
- ・両県の県都である福井市・金沢市の中間に位置し、ローカルのにも地理的に重要な位置にある。
- ・将来的には、新幹線や空港の整備によって大都市圏や海外との連絡強化が進むことにより、環日本海時代を拓く日本海国土軸における交流・保養の拠点となりうると考えられる。

c) 各市町総合計画の状況

- 各市町の総合計画について整理すると、いずれも、
- ・観光レクリエーションを産業振興の柱とする。
 - ・同時に、地域住民のレクリエーション活動、健康増進、生涯学習等の推進する。
- 以上の2項目が重要な施策となっている。

d) 歴史的経緯による位置付け

本地域は、以下のような県境を越えたつながりが古くからある。

- ・1417年に、本願寺の蓮如上人が北国街道沿いの国境の吉崎に道場を構えて布教を行い、これがきっかけで北陸全体に教えが広まり、吉崎は寺内町・門前町を形成するに至った。
- ・その後、吉崎一帯では、一向一揆により15世紀末から約百年間自治が行われた。
- ・藩政期には、天然の良港であった三国湊を加賀藩も利用したり、山中温泉へは越前からも湯治客が訪れている。

e) 自然条件

- ・対象地域は、加越山地から流れ出る竹田川・北潟湖（福井県）、大聖寺川・動橋川・柴山潟（石川県）の流域から構成されており、海・潟・川・溪谷・山地と多彩な地形がみられる。
- ・山間部は年間降水量が、3,000mm前後、最大積雪深が1mを越える多雪地帯である。
- ・海岸部は、越前加賀海岸国定公園、山間部では、山中・大日山県立自然公園（石川県）が指定されている。
- ・大聖寺川河口付近の鹿島の森（天然記念物に指定）をはじめ、雄島の自然林や大日山の原生林等の貴重な植生が残っている。

f) 社会条件

①人口・人流

- ・対象地域内人口は約16万人であり、加賀市が約7万人、他の町は1～3万人程度である。動態としては、丸岡町・加賀市・三国町・金津町の順で伸びており、芦原町、山中町で減少に転じている。
- ・福井県からみた石川県への転出・転入者は大阪に次いで2位であるが、石川県からみた福井県へのそれは、3大都市・富山県に次いで5位である。
- ・通勤・通学動態において、金津町と加賀市の交流がかなりみられる。

②産業

- ・サービス業従事人口比率は丸岡町を除いていずれも県平均を上回り、特に芦原町では35%にも達している。しかしながら、芦原町・金津町・三国町では第1次産業比率もかなり高い。
- ・産業別生産額ベースでみても、芦原町・山中町・加賀市は観光消費額の構成比が高く、芦原町は農業粗生産額の比率も高い。

- ・対象地域における特産物・特徴ある産業は、果実や魚介類等豊富であり、観光での活用が期待される

③観光レクリエーション

- ・加賀市においては、総合保養地域整備法に基づく加賀重点整備地区が設定されている。
- ・山代、片山津、山中、芦原の著名な温泉に加え、8つのゴルフ場・海水浴場等のスポーツレクリエーション系の資源、吉崎御坊等の文化・歴史資源、東尋坊・鶴仙溪等の自然環境系の資源が数多く分布している。
- ・春夏の時期に主なイベントが行われている。
- ・各種の観光資源を反映して、両県下でもトップクラスの観光入り込み数を誇っているものの、最近伸び悩んでいる。
- ・観光客の発地別構成は関西が3～4割を占め、中京とで6～7割となっているが、関東からの伸びが高い。芦原町においては、県内比率が高い。
- ・温泉地のある加賀地域、芦原町で、宿泊客率が高く、その他はほとんどが日帰りである。温泉宿泊客数は近年伸び悩んでいる。
- ・年間で約540万人の宿泊客に対し約5万人の収容能力がある。

・入り込みのピークは、海水浴場を持つ三国町では夏に、温泉地の加賀市、山中町では秋となっているが、芦原町では夏の入り込みも多い。

・観光アクセス手段としては、両県とも自家用車利用が約半分を占め増加傾向にあり、次に貸切りバスとなっており、定期路線によるものは減少傾向にある。

・観光消費額は各市町とも順調に増加し、加賀市で約730億円、山中町・芦原町でそれぞれ約190億円、観光客一人当たり1～2万円の消費額となる。

・域内におけるコンベンションの開催回数は、大きな観光入り込みに比べ、かなり少ない。コンベンション施設も本格的なものが少ない状況である。

・全国調査データをもとに、今後の観光レクリエーションの動向を整理したのが、下表である。

表1（今後の観光レクリエーションの動向）

項目	特徴
印象に残る事柄	1位：食べ物、2位：滞在地全体の雰囲気、3位：宿泊施設と付帯施設 →滞在地全体のイメージや雰囲気を重視する傾向へ
宿泊観光の希望	回数・日数 1位：旅行回数を多くし、日数も多くしたい 季節 秋、春 宿泊数 1.99泊 行動 1位：自然風景を見る、2位：温泉、3位：名所・旧跡を見る →回数、日数とも増やした際の魅力ある時間の過ごし方を重視
活動内容・ニーズ	参加・体験型の活動： スポーツ、キャンプ、音楽会、マリンレジャー、絵画・彫刻・陶芸等 スポーツ：気軽に楽しめる遊びのレジャースポーツ 文化活動：自分を高める知的活動 →ニーズに対応できるメニューの選択性
今後増える旅行形態	1位：女性グループ、2位：スポーツレジャー系、3位：小グループ →従来の一泊宴会型から小規模化、参加体験型へ
リゾートに必要な要素	1位：ゆっくりとくつろげる雰囲気がある、2位：自然の景観や温泉に恵まれている、3位：宿泊施設が整っている
リゾートに必要なサービス機能	1位：温泉、2位：森林公園、3位：自然散歩道 →滞在する際にはゆったりくつろげる雰囲気、温泉を重視

(2) 公共基盤施設整備状況の把握

河川・道路等の公共基盤施設の整備状況データを収集・整理した。

a) 道路

①道路網の整備状況

・広域的な道路網は、北陸自動車道を基軸に、国道8号が並ぶ形で対象地域中央を貫いている。その他両県の連絡道路としては、地域西側に国道305号東側に364号、地域外に国道157号がある。国道416号もあるが、通行不能である。

・将来的には中部地方を横断する東海北陸自動車道が開通する予定であり、これと北陸自動車道を結ぶ中部縦貫自動車道や国道360号の整備が待たれている。

・対象地域内の主要な道路網をパターン化したものが図2であり、将来的には北潟湖と東尋坊を結ぶ海岸沿い道路、芦原町と金津ICを結ぶ連絡道路、三国町・芦原町・金津町の基幹軸となる道路が構想されている。

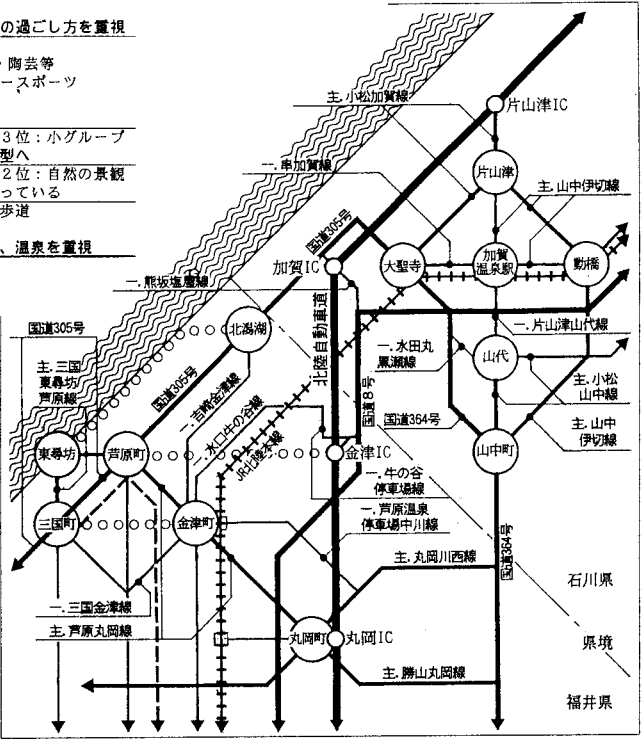


図2（道路網パターン図）

②道路交通の現状

- ・北陸自動車道・国道8号では平日約15,000台/12h、国道364号の一部で約10,000台/12h、国道305号で約6,000台/12hの交通量がある。ただし、福井県内で、広域農道を利用している金津ICからのアクセス交通が把握できていない。
- ・休日交通が平日を上回る箇所はかなりあり、特に国道305号は完全に観光道路の様相を呈している。

b) 自転車道

- ・石川県では加賀回廊整備計画として、日本海沿いに大規模な自転車道を計画・整備しているが、福井県境付近までである。

c) 河川・湖沼・海岸（図3参照）

- ・対象地域の南部を貫流する竹田川については、上流のダム建設を終え、九頭竜川の合流点付近から河道拡幅を行っている。
- ・中央部を貫流する大聖寺川は、河口付近は福井県にまたがり支川として北潟湖を有しており、上流のダム建設、中流の河道拡幅、下流の北潟湖の堰改築・水質改善対策が行われている。
- ・海岸部では冬の日本海の荒波から侵食を防ぐため、侵食防止を行っている。
- ・近年、水辺に潤いを求める河川・海岸の環境整備のニーズが高まっており、その対応が必要になってきている。



d) 下水道

- ・生活環境の整備と共に河川・湖沼の水質保全のために、両県下で流域下水道・公共下水道が整備されてきている。

e) 公園

- ・都市公園の整備状況は、加賀市・三国町での整備が進んでいる。
- ・他の町では十分ではないため、特に都市基幹レベルの公園整備が望まれている。

(3) 地域振興の基本方針の策定

観光・産業における振興策等の目標および実現のための基本方針を設定した。

a) 地域整備の基本理念

- ・「成熟社会」の到来により、本地域における基幹産業である「観光」にも構造的な変化が生じ始めている。
- ・すなわち、団体主体の物見遊山的、気晴らし的、享乐的なパターンから、親しい小グループで手軽にたびたび訪れゆったりとその土地ならではの文化や風土を味わうといった参加体験型・自己実現型に転換していく潮流である。
- ・このため、訪れた人が地域の人・風物と交流することがこれからの基本戦略であると考え、以下の基本理念を設定した。

基本理念

これまでの「観光」という概念から「交流」をキーワードとした新しい地域づくりをめざす

b) 地域の将来イメージの設定

地域の現状把握により整理された、立地特性と特色づける資源を活用すべく、以下の将来イメージを設定した。

立地特性

- ・3大都市圏との近接性
- ・日本海国土軸における中枢性

特色づける資源

海・湖・川
(みず)
と
温泉 (いで湯)

+

▽

地域の将来イメージ

環日本海時代を拓く交流保養ゾーン
越前・加賀
みずといで湯の文化連邦

c) 地域振興の期間別目標

交流保養ゾーンの形成のため、中・長期別の目標を次のように設定した。

現状

1泊宴会＋立ち寄り＋日帰り



中期目標（5か年後）

- ・滞在時間の増加（1泊2日・2泊3日）
- ・リピート性の拡大



長期目標

長期滞在化

（４）振興拠点整備における課題の整理

a) 拠点施設における課題

- ・一度訪れれば満足してしまう施設等が多いため、リピーターの確保が困難である。
- ・見るだけで終わってしまう施設等がほとんどであるため、本格的な満足が得られない。
- ・特定の施設等・時期に入り込みが集中しており、選択の幅が狭い。
- ・拠点施設の周辺や町並みに配慮が足りないため、散策する気になれない。
- ・イベントの場となる環境が不足しており、本格的なイベントが開けない。

b) ソフトにおける課題

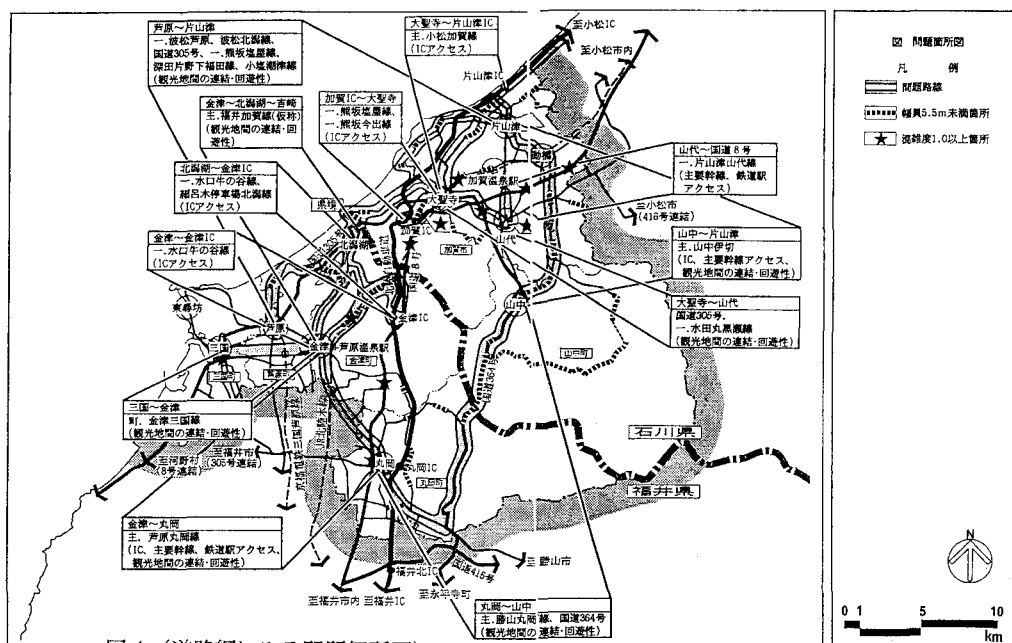
- ・小規模なイベントのため、発信性に乏しい。
- ・観光コースの設定が少ないため、手軽にツアーが組めない。
- ・情報提供が不足しているため、広域的な集客に欠ける。

（５）関連公共基盤整備における課題の整理

拠点施設等の整備に合わせて必要とされる道路・河川等の公共基盤施設の内容を整理した。

a) 道路

- ・2車線整備済みの国道8号で、混雑度1.0を越える箇所がかなりあるほか、県道の未改良区間を反映した問題箇所がまだ多くある。
- ・休日前日の夕方のアクセス経路（目的地への流入路）および休日の朝方のイグレス経路（目的地からの帰途）には、特有のピーク交通量があり、渋滞を来している箇所がある。
- ・芦原市街地における交差点のわかりにくさや散策路の欠如等を是正する必要がある。
- ・高速道路IC、主要幹線道路、鉄道駅、主要観光地間相互のネットワークを点検し、主要な道路における問題箇所を整理した結果が、図4である。



b) 自転車道

日本海沿岸自転車道ルートが県境付近で終わっているため、越前加賀回廊として福井県と一体化した東尋坊までの延伸が望まれ、少なくとも北潟湖周遊ルートの整備の必要がある。

c) 河川・湖沼・海岸

竹田川、大聖寺川、北潟湖、柴山潟で水辺を活かしたまちづくりが企画されているため、河川事業においても親水空間の整備を行う必要がある。

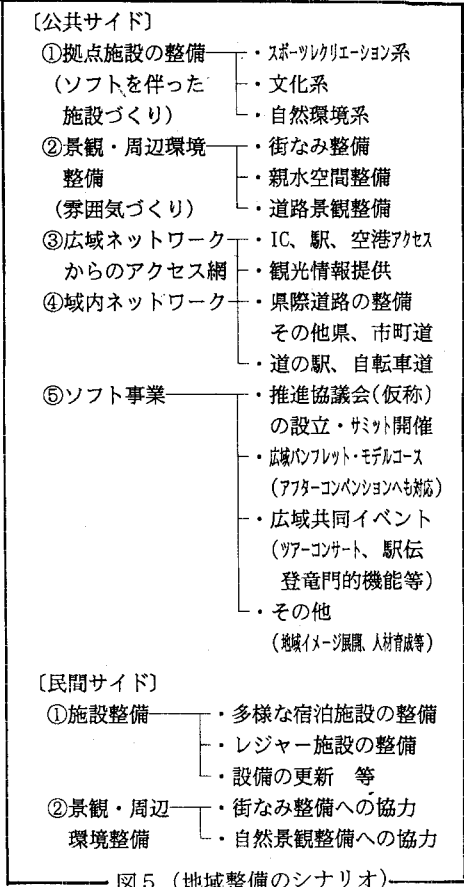
d) 公園

不足している福井県北部のレクリエーション拠点として、都市基幹公園の整備を行う必要がある。

(6) 計画案の設定および整備効果の検討

a) プロジェクトの基本構成

前述の課題に対応するため、拠点形成、公共基盤整備、ソフト事業等の基本的な組み合わせを図5のように設定した。



b) ゾーニング

プロジェクトを組み立てるに当たり、地理的条件・地域資源の存在状況から

①越前加賀海岸&市街地ゾーン

(柴山潟地区、加賀市中央地区、北潟湖地区、三国・芦原・金津地区から構成)

②越前加賀内陸ゾーン

(山中地区、丸岡地区から構成)

に分け内容を整理した。(図6、表2参照)

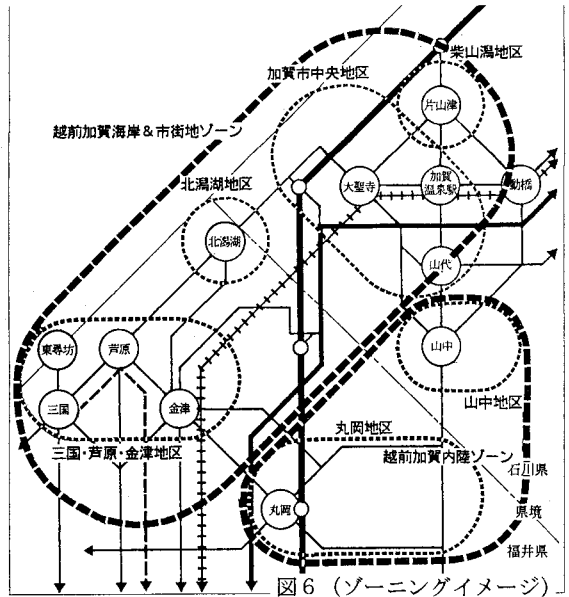


表2 (ゾーンとプロジェクト構成事業との対応)

	魅力ある資源・施設 拠点施設整備	景観・周辺環境整備 公共基盤整備	ネットワーク 公共基盤整備	魅力あるソフト 文化連邦ネットワーク
①越前加賀みずといで湯の文化連邦ネットワーク	-	-	国道305号等 9箇所	文化連邦サミット開催等 4箇所
②越前加賀海岸&市街地ゾーン				
○ゾーン内ネットワーク	-	-	主要地方道小松加賀線等 19箇所	-
①柴山潟地区 (いで湯と湖畔の文化)	中谷宇吉郎記念館等 2箇所	柴山潟河川浄化等 2箇所	主要地方道小松加賀線等 3箇所	湯のまつり(片山津温泉) 1箇所
②加賀市中央地区 (まれびと文化)	北前船の里資料館整備等 6箇所	大聖寺川中小河川改修等 2箇所	A254号線(加賀市等)等 7箇所	温泉リゾートセミナー等 10箇所
③北潟湖地区 (湖とこころの文化)	北潟湖畔活用整備等 4箇所	北潟湖畔環境整備等 4箇所	国道305号等 5箇所	芦原カヌーポロ大会等 2箇所
④三国・芦原・金津地区(いづみ・三ヶ所・おたけ)	国民休暇村整備等 9箇所	あわらエコ・スプリング整備等 3箇所	町道金津三国線等 11箇所	竹田川(CUP)ボートレース等 6箇所
③越前加賀内陸ゾーン				
○ゾーン内ネットワーク	-	-	国道364号 2箇所	-
⑤山中地区 (いで湯・めりもと森の文化)	山中ろくろの里広場整備等 8箇所	大聖寺川総合開発 1箇所	一般県道我谷今立塔尾線等 3箇所	自然塾等 5箇所
⑥丸岡地区 (古城と史跡の文化)	文の里整備等 6箇所	田島川環境整備等 5箇所	主要地方道勝山丸岡線等 7箇所	越まほろば物語等 3箇所

c) 整備効果の検討

想定される整備効果のイメージは、図7のようである。

拠点の影響範囲の拡大と拠点間のつながりを密にすることにより、あたかも一つの行政単位（すなわち連邦）のようになることを表現している。

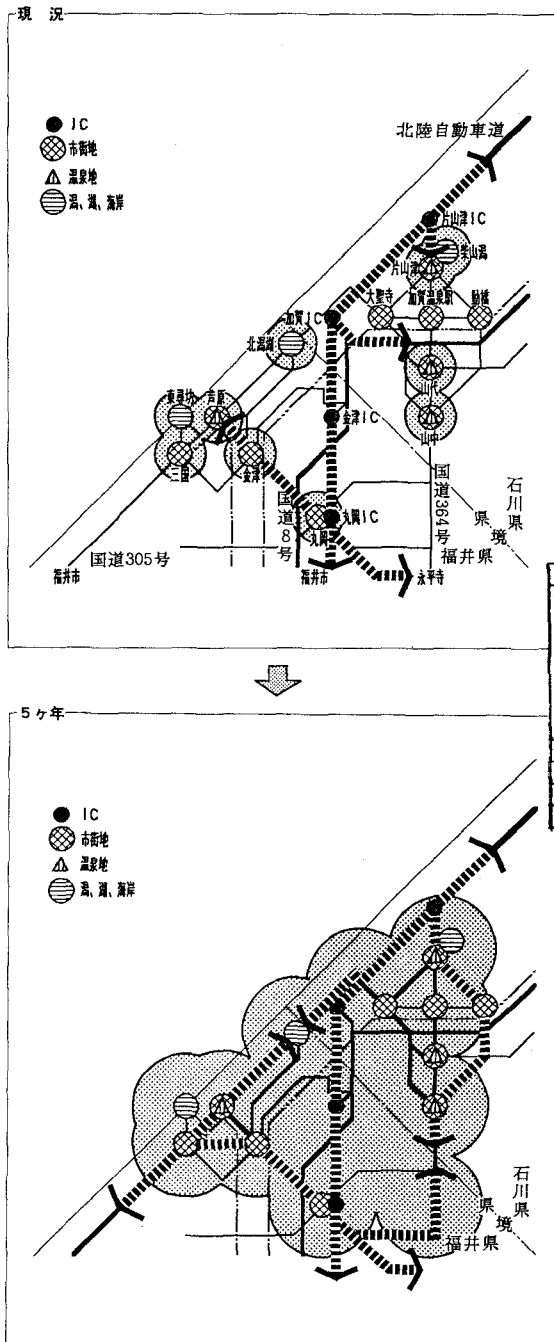


図7 (整備イメージ図)

(7) 拠点・関連公共基盤施設整備計画の作成

立案された望ましい組合せを実現するための事業実施計画（推進プラン原案）を作成した。

整備効果が高く事業実施の塾度が高いものの中から、概ね5か年間で整備できるものを選定した。

a) ハード事業

①拠点施設

事業内容の詳細については紙面の制約から触れないが、各分野別の事業数は下表のとおりである。

表 拠点施設			
施設分類	事業数	施設分類	事業数
文化教育複合施設	1	宿泊休憩案内施設	2
参加体験施設	5	展示販売施設	2
地域文化施設	5	商業施設	2
健康運動施設	3	自然環境・景観施設	8
保健休養施設	5	その他	2
合 計			35

②公共基盤施設

拠点施設と組み合わせたり、拠点施設等へのアクセスを確保することに主眼を置き、道路、河川、公園等の各種事業を選んだ。（下表参照）

表 公共基盤施設			
公共基盤分類		事業数	路線数
・道路	①地域外と連絡し、対象地域内の幹線として機能するもの（ICアクセス、鉄道駅アクセス）	2	2
	②地域内のネットワークを形成するもの（主要幹線アクセス、観光地間の連結・回遊性）	52	42
	③各種施設へのアクセス向上を図るもの	10	8
	④各種案内、情報、休憩の場を提供するもの	2	2
	小 計	66	54
・河川・海岸・潟・湖（親水空間の整備）		9	—
・市街地修景（街路、小広場整備等の組合せ）		2	—
・その他（公園等）		6	—
合 計		83	—

b) ソフト事業

以下の3項目に分類されるものを広域事業の代表的なものとして立案した。

①広域体制の確立

- ・サミットの開催
- ・推進協議会の設立

②広域共同による情報提供

- ・広域パンフレットの発刊
- ・広域モデルコースの設定

③広域共同イベント

- ・持ち回り開催による大規模コンサート
- ・駅伝等の広域連絡スポーツ大会